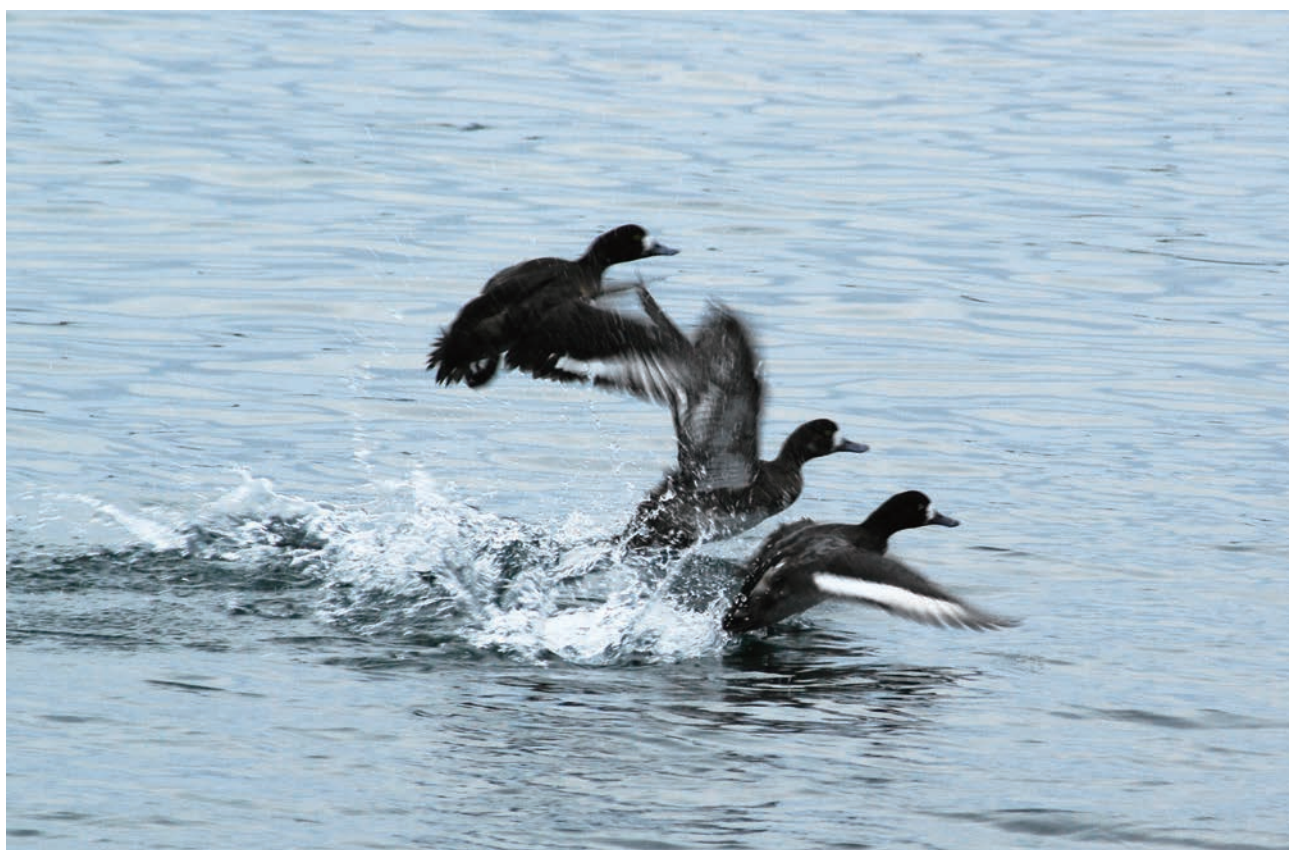


めでいかすとり *Médicastre*



「 スズガモ (雌) の離水 」

第37回 市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院、 こころの医療センター、医師会役員懇談会

日時：平成29年11月24日(金) 18：30～
場所：グランドエル・サン

今年で37回目となる市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院、こころの医療センター、医師会役員懇談会が11月24日グランドエル・サンで開催されました。

初めに、今年10月に新市長になられた皆川治市長より来賓挨拶をいただき、同市長からは引き続き「鶴岡市の健康福祉施策を進めるにあたっての抱負」と題して、17年間の農林水産省や地方に出向した経験を活かし、市民が健康で安心できる生活のために尽力されることや少子高齢化等の問題に対し行政と医師会等と連携を図って施策を進めていくこと、選挙で公約した50の政策を実現することなどをお話しいただきました。

次に、庄内総合支庁保健福祉環境部医療監 兼 庄内保健所長の石川仁先生より「庄内地域におけるサルモネラ症について」と題して、今年9月に発生したサルモネラ症のアウトブレイク事例の端緒についてお話しいただき、今後は未だ解明されていない感染経路・原因の究明、予防に関する研修会、情報提供を行っていくとの説明がありました。

また、山形県立こころの医療センター精神科医長の白石啓明先生からは「スポーツ精神医学について」と題して、スポーツ医学の精神医学への応用についてお話があり、現在こころの医療センターで週2回行なわれている、ソーシャルフットボール「オーロヴェッタ鶴岡」の活動について紹介がありました。

最後に、鶴岡市立荘内病院 認知症看護認定看護師の富樫千代美氏より「荘内病院認知症ケアチームの取り組み『高齢者と家族』を支え地域とつながるケアを考える」と題して、認知症ケアチームの発足から現在までの活動と、今後の課題について説明がありました。

引き続き隣の会場に移動し、三川町 阿部誠町長の乾杯のご発声で懇談会が行われました。外は早くに降った湿雪であいにくの天気でしたが、会場内では和やかに歓談され親睦を深めることができました。最後に鶴岡地区医師会副会長 福原晶子先生の閉会のご挨拶があり、行政と保健、医療の連携の重要性についてお話しされ、改めて年に1度のこの会が行政と医療関係機関との連携において貴重な機会となっていると感じ入り閉会となりました。

湯田川温泉リハビリテーション病院
齋藤 栄美子



日時：平成29年11月26日(日) 13:00～
場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

第36回 庄内医師集談会

庄内医師集談会幹事 三浦 道治

平成29年11月26日午後1時から、第36回庄内医師集談会が鶴岡地区医師会館3階講堂にて開催されました。参加人数は医師43名（鶴岡地区24名、酒田地区19名）、その他12名の計55名でした。鶴岡地区医師会副会長の福原晶子先生の開会の挨拶に続き11題の一般演題、その後2017年3月に発生した麻しんの対応・課題についての基調講演、パネルディスカッションが行われました。以下、その内容を簡単に紹介いたします。

演題Ⅰ 座長 鶴岡市立庄内病院 吉田 宏 先生

1) 「髄膜炎を繰り返した髄膜脳腫の一例」

鶴岡市立庄内病院 小児科

新井 啓 先生

9歳男児、発熱、嘔吐、頭痛で入院。過去2回細菌性髄膜炎の既往がある。髄液と副鼻腔からグラム陽性球菌を認めた。3回目の細菌性髄膜炎の診断でCTRXを投与し軽快。CTで右篩骨部髄膜脳腫が判明し繰り返す髄膜炎の原因と考えられた。また本症例でも心拍数や呼吸数などのバイタルサインの変化を認め、重症感染症の目安として重要である。

2) 「当地における食物アレルギー診療の現状と課題」

三井病院 小児科 三井 直弥 先生

小児アレルギー専門医は山形県内に2名、庄内は0名。庄内地区の食物アレルギー診療は全国水準に達していないと思われ地域全体でのレベルアップが必要。

3) 「高校の海外修学旅行の現状と課題」

三井病院 小児科 三井 直弥 先生

台湾へ修学旅行に行く高校生の食物アレルギーや旅行者下痢症への事前対策、事故対策、事後対応について。日本にはないリスクがあることを知る必要がある。

演題Ⅱ 座長 石橋内科胃腸科医院 石橋 学 先生

4) 「早期胃癌の1例」

ほんま内科胃腸科医院 本間 清明 先生

67歳男性、検診異常を指摘され精査したところ早期胃癌の診断。粘膜下層深部への浸潤を認めずESD施行。ガイドライン上の適応拡大病変と診断されたが術後41か月で多発リンパ節・肝転移を発症。再度複数の病理医で評



価も初回診断と同じだった。このようなガイドラインから漏れる症例も存在する。

5) 「胃がん検診、胃X線によるハイリスク群集約の有用性と問題点～ABC検診による集約と比較して～」

ほんま内科胃腸科医院 本間 清和 先生

H26年度に発見した胃がんの症例の全例で胃X線検査での胃粘膜襞の異常（襞の消失、太まり、蛇行）を認め、ハイリスク群集約に有用であると思われた。

6) 「2型糖尿病の悪化にて偶発的に発見された膵鉤部原発神経鞘腫の1例」

鶴岡市立庄内病院 外科

白幡 康弘 先生

70歳代女性、糖尿病の悪化のため施行した腹部エコーで膵頭部に25mmの腫瘍を認め、CT、MRI検査で30mmの原発性膵頭部癌の診断、膵頭十二指腸切除術を施行。病理結果は膵鉤部原発神経鞘腫であった。膵鉤部原発神経鞘腫は非常に稀で多彩な画像を呈するので術前診断は困難である。

演題Ⅲ 座長 鶴岡協立病院

市川 誠一 先生

7) 「当院における下肢静脈瘤治療の現状～血管内高周波焼灼術導入から1年が経過して～」

庄内余目病院 心臓センター 心臓血管外科
圓本 剛司 先生

2016年6月から庄内地方で初めてとなる血管内高周波焼灼術（RFA）による下肢静脈瘤手術を開始し2017年11月までに113例151肢に実施した。術後は全例で下肢静脈瘤関連症状は改善した。最近では下肢静脈瘤手術で低侵襲なRFAを施行する例が大多数となっている。

8) 「OCTと血管内視鏡が有用であった、冠動脈解離が原因と考えられるACSの1例」



庄内余目病院 心臓センター 循環器内科
菊池 正 先生

1 週前からの胸部不快感で受診の42歳女性。
ステント留置で治療。

演題Ⅳ 座長 中村内科胃腸科医院
中村 秀幸 先生

9) 「統合失調症の認知機能障害」

山容病院 精神科 渋谷 直史 先生
統合失調症患者は就業継続率が低く一般就労率は23-24%となっている。その背景にある認知機能障害に対し社会認知リハビリテーションと神経認知リハビリテーションを開始し就労率の上昇を期待している。

10) 「認知症診療における脳神経外科診療所の役割」
くろき脳神経クリニック 黒木 亮 先生
2008年3月からの9年間で認知症と診断された患者は278名、直近3か月ではアルツハイマー型38名、レビー小体型4名、血管障害型6名であった。認知症患者の増加する状況で患者の治療や家族のサポートにおける脳外科専門医の役割、特に受診しやすい脳外科無床診療所で専門性の高い診療を行うことが求められている。

11) 「医師に感染対策上の行動変容を促すための感染対策チーム（ICT）の役割」
鶴岡市立荘内病院（感染対策チーム）
鈴木 聡 先生
末梢輸液アミノ酸製剤汚染によるセレウス菌血症事例を契機に、製剤への薬液の混注禁止と8時間以内に製剤を使い切るといったICTからの提案に多数の医師の賛同が得られた。医師に感染対策に関する最新情報を提供することがICTには求められている。

基調講演 座長 おのこども診療所
小野 俊孝 先生

「2017年3月に発生した麻しんの対応・課題」

庄内総合支庁 保健福祉環境部 医療監 兼
庄内保健所長 石川 仁 先生

・麻しん発生に係る対応状況

○相談件数 延べ510件 ○調査対象者（健康

観察対象者）約3700人 ○県外への調査依頼延べ201自治体の445人 ○検体採取者数 137人（陽性：53人 陰性：84人） ○緊急ワクチン等接種状況 合計1050本（未接種未罹患者、一回接種未罹患者を優先） ○県民への情報提供 プレスリリース24報及びホームページへの掲載、関係機関によるチラシ配布、市町報による注意喚起 ○関係機関との情報共有 麻しん患者発生対策連絡会議（2回開催）、関係機関への通知（7回）

・感染が拡大した要因

○初発患者の受診が遅れ、かつ、ウイルス量の多いスプレッダーであった。 ○2次感染者にもウイルス量の多いスプレッダーが存在した。

・課題

○関係自治体間や医療機関との情報共有。患者の立ち寄り先の地域の医療機関への速やかな情報提供 ○ワクチン接種の重要性

パネルディスカッション

4名のパネラーの先生方から各施設での対応の発表の後フロアの先生方と、修飾麻しんの診断について、県外の各自治体間で情報公開の程度に差があったことにつきそのあり方について、ワクチン不足への対応、協立病院の麻しん患者例等につき活発な質疑応答となりました。

日本海総合病院 副院長

齊藤 宗一 先生

麻しん患者は6名で夜間休日受診は4名。
3名は保健所に相談後来院。4名は修飾麻しんだった。

川口耳鼻咽喉科クリニック

川口 和浩 先生

保健所より当院受診した患者が麻しん感染者だったと連絡あり、麻しん患者診察の前後1時間の受診者をピックアップし保健所に連絡。抗体価の低いスタッフにワクチン接種。
荘内病院 感染管理認定看護師

若松 由紀子 氏

感染疑い患者6名、陽性者0名。課題として保健所や開業医との連携、全職員の免疫獲得、感染予防の意識向上。

佐久間医院 佐久間 正幸 先生

平常時からスタッフの雇用時に感染症の抗体価を測定し、低い人にはワクチン接種をしている。

鶴岡地区医師会副会長の小野俊孝先生の挨拶で閉会した後、懇親会は活発な情報交換会となりました。来年の集談会は酒田で開催予定です。多くの先生方のご参加をお願いいたします。

第13回 健康管理センター講演会

日時：平成29年11月11日(土) 14：00～
場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

講演会当日は、暴風、雷、そして雨と霰が降る状況となり、来てくださる方は少ないのではと心配しておりましたが、123名と多くの方よりご参加いただきました。住民の皆様の健康に関する意識の高さが伺われました。

今回は当センター職員、橋咲希管理栄養士による「きちんと食べて太らないからだに！」と福原医院 院長 福原晶子先生による「自分で守ろう、目の健康～健診で伸ばす、目の健康寿命～」の2題の講演を行いました。

橋管理栄養士は、健診では異常がなくても何となく体調が優れない場合、どこに問題があるかをきちんと自覚し、生活習慣の土台を整えることによりきちんと食べても太らない、太りにくいからだにしていくための食事のとり方について話しました。口から摂取する栄養源を朝・昼・夕食のどのタイミングでどれ位の量が適当なのか、また間食をとるには最適時間がある事など食事制限をすることなく、ベストな体重・ベストな体調で過ごせるポイントを聞き、明日からでも実践できる講演内容でした。

福原先生の講演では、大人になってから視力が低下する目の疾患、白内障・緑内障・加齢黄斑変性症・眼底出血・屈折異常について、丁寧に説明していただきました。白内障は手術で治るが緑内障は視神経が障害されているので、元に戻ることはなく、進行を抑える事が治療のポイントで定期検査の重要性を強調されていました。また50歳以上の男性に多い黄斑変性症はタバコや食生活が影響し、早期発見が重要との事でした。眼底検査で発見可能で、当センター

の眼底検査は全て眼科医が診ているため専門的に診ているという心強いお話もされました。自分の目を健康に保つために、中高年以降は年に1度目の検査をする、健診やドックを利用する、眼鏡を正しく使用する事などを学ぶことができたと思います。講演後の質疑において、眼鏡やサングラスの着用についてや、ブルーベリーの効果についてなどの質問があり、福原先生より丁寧にご回答いただきました。

専門的な情報も積極的に取り入れて、参加者自身の健康寿命について意識している皆さんの心意気を感じることができる講演会となりました。今後も住民の皆様に寄り添い、お互いの健康を維持する環境づくりに励んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、ご講演をお引き受けいただきました福原先生、どうもありがとうございました。

臨床検査課 阿部 等身



第59回 鶴岡准看護学院戴帽式

日時：平成29年11月15日(水) 13：30～

場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

平成29年11月15日、第59回戴帽式が挙行されました。7か月間の予科期間を経てこの日を迎えることができました。一人一人がナースキャップを戴き、厳粛な空気の中ナイチンゲール誓詞を唱和しました。これから多くの困難にぶつかり、その度に学び、支え合い、成長していったほしいと思います。会員の先生方の温かいご指導とご協力をお願いいたします。

板垣百合香

戴帽式でナースキャップを戴き、私達はナイチンゲール誓詞を心に刻み、心より医師を助け、関わる全ての人々の幸のために身を捧げる看護ができるようになりたいと思いました。そのために、これから始まる臨地実習で知識や経験を学んでいきたいと思っています。

猪股 由紀

戴帽式を迎えるにあたり、多くの事前学習やテスト、学内実習など様々な課題にクラス全員で取り組んできました。時には心が折れそうな時も周りの仲間が支えてくれたからこそ迎えられたのだと思います。ナースキャップを戴いたときは感激し、同時に実習に向かって気合いを入れて頑張りたいと思いました。

佐藤 歩

戴帽式に家族から参列してもらい晴れ姿を見ることができ、感無量でした。ナースキャップを戴いた時には、今までを振り返り感動し、明日からの臨地実習に対する不安と期待で胸がいっぱいになりました。初心を忘れず、常に支えてくれる周りの方々に感謝の気持ちを忘れず乗り越えていきたいと思っています。

和田 美紅

戴帽式を終えて、明日から臨地実習で学ぶことへの緊張感が高まりました。実習はまだまだ先のことと思っていましたが、式の練習を重ねる毎に自分達はここまで来たという思いが強くなっていきました。クラスメイトがナースキャップを戴いている姿を見て、このメンバーでどんなことも乗り越えていきたいという気持ちです。祝賀会で、先輩が行ってくださった寸劇では、実習時の注意事項や言葉遣いなどについて学びました。同じ場面に遭遇したら思い出し、適切に行動していきたいと思っています。また、指導を受けた時は、素直に聞き入れ成長していきます。初めての实習で分からないことも沢山ありますが、学ばせていただいていることを忘れずに頑張っていきます。



鶴岡地区医療学術懇話会

日時：平成29年11月30日(木) 18：45～
場所：グランドエル・サン

『骨粗鬆症の最近の知見』

講師：信州大学医学部附属病院
整形外科 講師 中村 幸男 先生

我が国は世界有数の長寿国であるが、平均寿命に比べ健康寿命は高いとはいえない。その主な原因の一つとして骨粗鬆症を含めた骨対策が十分でないことが挙げられる。従って、骨への取り組みは、骨粗鬆症に起因する脆弱性骨折を防ぐ為の重要課題であるといえる。

現在、我が国における骨粗鬆症患者数は約1,250万であり、右肩上がりに増え続けている。骨粗鬆症ベースの脆弱性骨折、特に大腿骨近位部骨折は年々増加しており、我が国の寝たきりの主要な原因となっているが、その対策不足は否めない。我々は過去5年間、長野県内における骨粗鬆症、ロコモへの取り組みを行ってきた。

昨今、PTH製剤やデノスマブ、イバンドロネートなどの新たな骨粗鬆症治療薬が認可され、治療薬の幅が広がるとともに、生活習慣病との

関連や続発性骨粗鬆症に関する知見が増加してきている。その一方で、治療薬の選択に迷い難渋するケースにしばしば遭遇する。

本講演では自験例の報告を中心とした骨粗鬆症治療薬の選択と併用効果に加えて、daily PTH製剤であるフォルテオの有用性や使用タイミング、特に骨粗鬆症治療ナイーブ症例に対する治療効果の検討について報告する。本邦におけるPTH製剤はdaily及びweeklyの2種類を選択することが可能であるが、作用点・機序は同一ではない為骨密度上昇効果や骨代謝マーカーの変動に差異がある。

以上、本講演では長野県内における骨粗鬆症、ロコモへの取り組みの一部のご紹介、骨粗鬆症全般と栄養、運動、及び薬物療法における最近の知見についてお話ししたい。

移植医療対策推進功労者に対する厚生労働大臣感謝状

この度 栄えある感謝状を授与されました。
誠におめでとうございます。



鶴岡市立湯田川温泉
リハビリテーション病院
武田 憲夫 先生

長年にわたり臓器移植の普及啓発および移植医療の普及・
向上のために努力された功績が認められ、厚生労働大臣より
感謝状が授与されました。

(10月15日授与)

山形県学校保健連合会学校保健功労者表彰

この度 栄えある表彰を受けられました。
誠におめでとうございます。



黒沢眼科医院
黒澤 明充 先生

長年にわたり地域の学校保健業務にご尽力
された功績が認められ、山形県学校保健
連合会より表彰されました。

(11月22日表彰)

佐久間医院
佐久間 文明 先生

表 紙

「スズガモ（雌）の離水」

斎藤 慎

雌は頭部が黒色。体は褐色。くちばし基部が白い。翼には飛翔時に白線が出る。

雄は頭から胸にかけてと尾が黒い。背は灰色で腹は白い。冬鳥で10月頃から日本に飛来する。加茂港で見かける群れは雌がほとんどである。羽音が金属的なので鈴鴨の由来との事である。

編 集 後 記

今年も残すところあと半月ほどとなりました。個人的にはあっという間に過ぎて行ったこの一年でしたが、皆さんはいかがでしたでしょうか。

振り返りますと、今年は選挙が多い年だったと思います。いつもより政治に関心が向き、投票所に足を運ぶ人も多かったのではないのでしょうか。まず、鶴岡市長・市議会議員選挙、そして翌週には衆議院議員総選挙がありました。森友・加計問題により政権が替わるかもしれない、そして希望の党に期待する意見も当初多かったと思いますが、ふたを開けてみると野党がバラバラになる一方、与党に大きな追い風が吹き選挙前とあまり変わらない結果となりました。

そして、麻疹、サルモネラなど感染症が多かった年でもありました。保健所を中心に各医療機関でも最善の注意を払っていましたが、いずれも早期に収束させることが難しい状況でした。

これから増えてくるとされる感染症、インフルエンザの流行はまだですが、ワクチン不足という近年にはなかったことが起きています。各医療機関に「ワクチンがなくなる前に早めに予防接種をしに行こう。」という患者さんが殺到したと思いますが、インフルエンザが猛威を振るわないことを願っています。

皆さんそれぞれが今年一年を振り返り、いろいろな感想をお持ちだと思いますが、国政とは異なり、透明性のある医師会運営をこれまで以上に行っていくことを誓い、今年最後のめでいかすとるを締めくくりたいと思います。

(渡邊 秀平)

編集委員：三浦道治・小野俊孝・福原晶子・三科 武・佐久間正幸・木根淵智子・渡邊秀平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1－34

TEL 0235－22－0136 FAX 0235－25－0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jpホームページにも掲載しております 鶴岡地区医師会 検索 URL <http://www.tsuruoka-med.jp>